

令和7年度 総務教育常任委員会行政視察報告書

1. 視察日程

令和7年6月30日（月）から7月3日（木）まで

2. 視察先及び視察内容

(1) 北海道帯広市

ひろびろチョイスについて

(2) 北海道富良野市

A I オンデマンド交通「ふらのり」について

3. 参加者

委員長 野 中 貴 健

副委員長 櫻 田 秀 夫

委員 佐 藤 広 政 富 岡 幸 夫

4. 視察内容

◎北海道帯広市（7月1日（火））

【市の概要】

帯広市は、北海道東部の十勝地方のほぼ中央に位置し、北海道で5番目に人口が多い都市である。明治16年に本格的に開拓がはじまり、碁盤目状の道路網など計画的な市街地形成を行ってきた。また、農業を主要産業とする十勝地方（約34万人、1市16町2村）の中心地であり、農産物集積地、商業都市としての役割を担っている。面積は619.34平方キロメートル※（東京23区とほぼ同じ）で、南西部は日高山脈が占め、令和6年に市域の一部が「日高山脈襟裳十勝国立公園」に指定された。また、山地から札内川、帯広川、戸蔦別川などが流れ出ており、札内川の水は水道水の原水として利用している。一方、市域の約6割を占める中央部・北東部の平地は、その約半分が農地であり、全国でも有数の大規模経営の畑作・酪農地帯である。市街地は市域の北東端に位置し、全国6位の流域面積の十勝川や札内川に隣接している。

【調査事項】

ひろびろチョイスについて

説明者・・・帯広市学校教育部学校教育指導課指導主事

横 山 理 恵

【概 要】

《経緯》

帯広市の不登校児童生徒数は、全国的な傾向と同様に増加傾向にあり、不登校児童生徒への対応が大きな課題となっていた。帯広市は、これまで教育支援センター

ひろびろを開設し、不登校児童生徒の支援を行ってきたが、教育支援センターひろびろが市内中心部にある等の立地的な課題があり、誰もが支援を受けられないといった課題があった。そのような中、不登校が将来的には引きこもりにつながるなど、こどもの将来に関わる大きな問題であることから、多様な支援が求められていた。文部科学省から、不登校の児童・生徒の社会的自立が図られるよう自宅におけるICTを活用した学習活動でも要件を満たせば、出席扱いや評価ができることについて示された。さらに、GIGAスクール構想で一人一台端末が整備されるなど、不登校の児童・生徒を支える環境が整備される状況があり、帯広市として不登校の児童・生徒の新たな支援を行うべく、令和5年5月からオンラインを活用したひろびろチョイスを開設した。

開設当時、ひろびろチョイスのようなオンラインを活用した不登校支援は全道では初、全国的にも東京都、広島県、さいたま市など、県教育委員会や政令指定都市が行うものが数件のみであった。また、そのような自治体では外部委託により運営している状況であったが、ひろびろチョイスは、帯広の子どもたちを地域全体で支え、応援することを重要視し、他自治体の取組を参考としながらも、外部委託はせず、帯広十勝地方の企業やフリースクールの協力を得て支援を行うこととした。

《事業概要》

○ひろびろチョイスとは

- ・オンラインを活用した学習支援や体験活動を通して、学びの機会を深く担保し、学校復帰や社会的自立につなげていくことを目指している。

3つのC

①「**C**hoice (チョイス) ~ 選べる ~」

→自分で学ぶ場所・学ぶ内容を選ぶこと

②「**C**onnect (コネクト) ~ つながる ~」

→人とつながり、さらには自身の未来へつながっていくこと

③「**C**heer (チアー) ~ 応援する ~」

→地域の大人でこどもの学びを応援すること

○利用対象

- ・帯広市立小中学校及び義務教育学校の児童・生徒であり、主に心理的要因や集団的不適応等によって不登校の状態にある児童・生徒を対象としている。
- ・Wi-Fi 環境がない家庭には、教育委員会が個別に相談を受け対応している。また、希望により、スタディサプリの加入ができるようになっており、習熟度に応じた学習を選べること、学習履歴や学習の達成度がわかること等のメリットがあることから、通知表への反映を希望する参加者には推奨している。
- ・様々なコンテンツを利用するため、お互いが気持ちよく利用するために保護者及び児童生徒へ個人情報の保護や著作権に関わる同意を得て事業を行っている。

○登録者数

- ・令和6年度の登録者数は126名の登録があった。
- ・令和6年度からの登録更新者は78名、退会者は48名となっており、令和7年度は、令和7年5月9日時点で登録者が83名となっている。

○ひろびろチョイスの教室内（仮想空間内）について

- ・ひろびろチョイスは、仮想空間にアバターで入室し学んでいく。アバターや名前は、児童・生徒が自ら選択し、入室する。
- ・ひろびろチョイスへログインすると、初めに入口から入室し、入口横には相談員がおり、1人1人の児童・生徒に対応していく。
- ・相談員は、ひろびろチョイス専門の相談員が1名、教育支援センターひろびろの相談員1名が教室内（仮想空間内）に入り対応している。
- ・教室（仮想空間内）は、こどもが学び方を選べるように、スペースにより学び方を分けている。

教室内（仮想空間内）の設置スペースについて

【受付】

- ・入室時に「名前」「所属」「今日の学びの予定」を確認する。
退出時は受付の相談員へ声をかけ退出する。

【ひとりスペース】

- ・1人でじっくりと学びたい児童・生徒が利用する。
ひとりスペースには、ミーティングのアイコンが設置されておらず、1人でじっくりと学ぶことができる。

【わいわいスペース】

- ・複数人で学びたい児童・生徒が利用する。
ミーティングのアイコンを設置し、参加者同士でつながり、学ぶことができる。お互いが画面共有をし、学びを交流する場面もある。

【解決スペース】

- ・学びの中でわからないことなどがあった場合は、解決スペースを利用する。相談員や参加者がつながって学びの解決を図っていく。

【帯広市立図書館】

- ・帯広市電子図書館へつながるスペースで、ここから直接電子図書館で本を借りて読むことができる。

【帯広市教育研究所作成コンテンツ】

- ・帯広市教育研究所が作成した帯広タイピングアプリ、音楽アプリなどのコンテンツを利用することができる。

【そうだんルーム】

- ・相談員へ個別の相談がしたい場合に利用する。
鍵がかかるため、周りの人に聞かれることなく安心して相談することが可能となっている。

【作品コーナー】

- ・ひろびろチョイス参加者が作成した作品を展示・鑑賞することができる。

【ボードゲームスペース】

- ・ひろびろチョイス参加者同士のつながりを広げるため、開設している。

【すくさぽコーナー】

- ・毎週月曜日に「フリースクールすくさぽ」が Zoom で学びを提供している。

【カレンダー】

- ・毎月の予定と様々な活動に参加申し込みできるカレンダーの設置している。

時間割について

- ・基本的には1日3校時で構成しており、10時から14時15分までをログイン時間としている。

1日の流れ

(午前)

① 【おはよータイム】 10時～10時15分

- ・相談員がフリースペースで出席状況の確認や健康観察、1日の過ごし方の確認を行う。

※ 顔出し、声出しは参加者が選択する。

※ おはよータイムに限らず、ひろびろチョイスへの入室は可能。

② 【個別チョイス】

1校時目10:15～11:00/2校時目11:15～12:00

- ・自分のやりたい学びを一人ひとりのペースで、自分で選択し行う。

個別チョイスの内容(例)

- ・教科書、AIドリルで勉強
- ・電子図書館で調べ学習や読書

- ・帯広市教育研究所のコンテンツで勉強
- ・相談員への相談
- ・オンラインのメリットを活用し他参加者とつながりながら勉強

③【昼食】 12:00～13:15

- ・基本的には離席するが、フリースペースを利用し、他の参加者とおしゃべりをして昼食をすることもできる。

(午後)

④ 3校時目 13:15～14:00 ※曜日等により実施チョイスが異なる。

○月曜日・水曜日：サポチョイス

- ・フリースクールが提供する多様な学びの時間であり、十勝帯広のフリースクールと連携、協力し、月曜日はオンラインで学習に関する個別チョイスを提供し、水曜日は多様な体験活動を行っている。

○火曜日：クラブチョイス

- ・興味・関心が同じ児童・生徒が小集団で楽しみながら学びを行い、交流している。令和7年度は、eスポーツやクッキング、マインクラフトや自然体験学習などを中心に、オンラインとリアルの両方で活動を行っている。

○木曜日：遠足チョイス

- ・月に一度、帯広十勝の様々な人に会い、施設見学、料理体験、職場の体験、自然体験、ボランティア体験等、様々なコンテンツを計画している。
- ・実施内容にもよるが、オンラインでの参加や保護者も一緒に参加することも可能としている。
- ・オンラインを通じて見聞を広げることや、リアルな体験を通して子どもたちの社会性や感受性を高めることを狙いとしている。

○金曜日：わくわくトークチョイス

- ・帯広市教育委員会の指導主事がそれぞれの得意分野を生かしながら、オンラインによる参加型イベントを開催している。

⑤【またねータイム】 14時から

- ・1日の活動の簡単な振り返りや今後の予定等の確認を行う。

○学校側との確認（出席扱いと学習評価等）について

周知方法

- ・全家庭へパンフレットの配布及びメール配信サービス「楽メ」を活用し、全家庭へ申し込みフォームを送信している。

受付方法

- ・ひろびろチョイスへ参加を希望する家庭は、QRコードからアクセスし、利用申し込みフォームへ必要事項を入力し、フォームを通して教育委員会へ送信しても

らう。

- ・教育委員会は申し込みフォームを基にひろびろチョイス利用申し込み書を作成し学校へ送付する。

※この段階では利用申し込み書(案)となる。

- ・利用申し込み書案を受け取った学校は、出席扱いと学習評価の2点について保護者と確認を行う。出席扱いと学習評価は、文部科学省の7要件を踏まえて対応しており、教育委員会では学校の判断が難しくならないようガイドラインを作成し、提供することで学校と児童・生徒の学びの補償を支援している。

○これまでの成果と事業の中で見えてきた課題

成 果

- ・想定を超える120名の登録者がある等、ニーズを捉えた取組が実行できている。
- ・不登校の児童・生徒の新たな居場所の確保と社会的自立につながっている。
- ・フリースクールとの連携による多様な支援の充実が図られている。

課 題

- ・想定を超えた登録者による支援リソースの不足
- ・支援リソースの不足により、登録者が求める支援の把握の困難による伴走支援の難しさ

メンター制度の導入

- ・教育委員会として、上記が課題として上げられていたが、伴走支援の充実と1人1人の社会的自立を図ることを目的にメンター制度を導入した。
- ・メンターは年上のお兄さんやお姉さんのような「ナナメの関係」の立ち位置で子どもと接しながら意欲を育み、「ひろびろチョイス」の学びや関係団体等の学びに参加を促す等、次の一手に寄り添う伴奏者としての役割を担っている。
- ・メンターの申し込み状況は令和7年4月末時点で16名となっている。

主な役割

- ・週に1回（曜日を固定し、15分程度）、子どもと個別面談をひろびろチョイス内で行う。
- ・気軽なおしゃべり等を通じて関係性をつくり、1人1人に応じた支援を実施する。
- ・支援策をチョイス相談員等と共有し、1人1人に応じた支援を実施する。

利用者・学校アンケート ※一部抜粋

利用者アンケート

Q. ひろびろチョイスは好きですか。

好き 33.3%

どちらかというとき好き 33.3%

どちらかというとき好きではない 28.6%

好きではない 4.8%

学校アンケート

Q. 不登校児童生徒の支援の手立てとして、ひろびろチョイスの仕組みは有効と感じるか。

そう感じる 69.2% どちらかというそう感じる 30.8%
どちらかというそう感じない 0% そう感じない 0%

【主な質疑】

Q メンター制度のメンターは、どのような方を選任しているのか。

A メンターの選任に関しては、普段からこどもとの関わりをもっている教育相談員等の資格を有する方を選任している。こどもの状況を見極めながら、現状に適した立ち位置のサポーターを紹介している。

Q ひろびろチョイス（仮想空間）内の相談員と現実空間での教育支援員は兼業して業務を行っているのか。

A 実質的には、仮想空間内の相談員は、教育支援センターの職員も仮想空間内で支援を行っている。それとは別に、仮想空間内を専門に相談員として支援を行っている職員も1名いる。

Q 令和6年度からの退会者が48名いるが、その主な理由についてお聞きしたい。

A 中学3年生が卒業したことや実際に学校へ復帰した生徒がいる。また、ひろびろチョイスへ登録したが上手く活用できず、退会した生徒もいる。

Q 実際に現実空間内で実施する事業について、登下校の手段はどのように対応しているのか。

A 帯広市自体の行政面積が広大であるため、まず、教育支援センターに通うことができない生徒のためにひろびろチョイスを開設した経緯がある。実際に現実空間内で実施する事業の参加については、市内の中心部に居住する生徒の参加が中心となっており、市内の中心部以外に居住する生徒については、保護者の送迎が必要という課題点がある。そのような課題はあるが、帯広市では、校内教育支援センターという学校内の教室ではないところに登校できる体制を多くの学校で整備を始めており、こども達にはひろびろチョイスや校内教育支援センター等、自分で学びを選択できる取組を行っている。

Q 仮想空間内での職員の対応は2名で行っているとのことだが、人員不足等の課題はないのか。

A 人員が増えることに越したことはないが、現状は対応できている。仮想空間内の職員の対応として、こどもたちが仮想空間内に入って、何をするのかというのは、こどもが決めるってところを帯広市ではすごく大事にしており、自分で決めて自分で決めたことを達成していくという達成感の積み重ねを少しず

つ積み重ねることによって、自信をつけていただき、その自信を学校でやってみようかなという気持ちに後押ししていく方法を大事にしているので、仮想空間内の子ども達に対して、「今日はこの勉強しなさい」というアプローチはできるだけ行わないようにしている。しかしながら、職員



が何もしないというわけではなく、学習計画のサポート等、子どもたちが学びにより達成感を築けるよう環境づくりに努めている。

Q ひろびろチョイスを通して学校復帰に至ったが、再度、ひろびろチョイスを活用しなければならない状況となった事例等はあるのか。

A ひろびろチョイスを通して学校復帰した子ども達の多くは、ひろびろチョイスへ登録を継続したまま、学校復帰に至っている状況がほとんどである。

Q 自然体験学習は大変有効な手段だと思うが、その効果は。

A 屋外での活動は、自然や動物に直接触れることが多いので、子どもたちは開放的な気持ちになり、不安やストレスのない学習ができている。

Q 遠足チョイスは探究学習にも結びつくと思うが、これまでに行った場所は。

A 花見やばんえい競馬場、職場体験や氷祭り体験など、帯広や十勝の様々な場所に月に一度程度出向き、体験活動を行っている。また、職場体験では、気になった職業に関わったことで、将来のなりたい職業を発見した子どももいる。

【委員の所感】

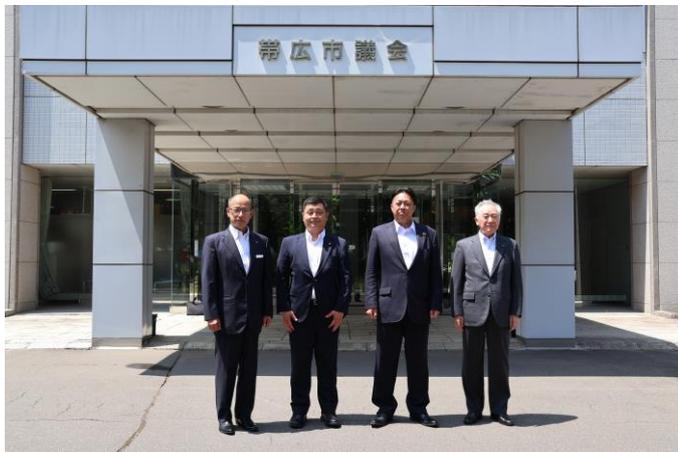
- ・ 教育活動に力を入れている帯広市ですが、不登校児童生徒の居場所づくりもしっかり取り組んでいる。むつ市でもアバターを使った仮想空間での事業を行っていますが、計画、企画、遠足チョイスは、不登校児童生徒の自発的な思考や行動を促せる大切な機会になると考える。

また、同じ不登校経験のある、地元の通信高校生徒との交流は大変有効な手段。同じ境遇を経験しているからこそそのアドバイスも大切なことです。

職場体験で美容院を訪れた生徒が、ヘアデザイナーを目指して頑張っているとの話は、きっかけ作りの成功例に。

むつ市でも令和8年度から「学びの多様化学校」が始まる予定ですので、先進的な取組をしている事例を多く取り入れて、不登校児童生徒の居場所を確保しつつ、更に楽しみながら学べる環境づくりを構築していかなければと思います。

- 「ひろびろチョイス」は子どもたちが楽しみながら学べる環境を提供する取組で、e スポーツやハロウィンイベントなど、直接交流できる機会が充実。「参加して楽しい」と感じる理由は、ゲームやイベントを通じて仲間とつながり、人と関わる楽しさを実感できる点にあります。特に、e スポーツはコミュニケーションを促進し、季節イベントは対面での交流が魅力です。プログラムでは、教育相談員などの資格を持つ専門サポーターが、子ども一人ひとりの状況や気持ちに合わせた支援を行い、悩みを抱える子には親身に話を聞くサポーター、対人関係に慎重な子にはそっと寄り添うサポーターを配置するなど、きめ細やかな配慮がされていました。この柔軟な対応が、子どもたちに安心感や信頼感を与え、プログラムの魅力を高めていると感じました。さらに、「ひろびろチョイス」に携わる大学生の姿を通して、自らもサポーターとして活躍したいと考えるようになり、自立に向けた教育につながっている点も印象的でした。子どもたちが自分に合った学びや交流の場を見つけられる場所であり、係わる専門サポーターの存在が大きいと感じます。子どもの個性を尊重し、多様な学びを提供する取組は、今後の教育のモデルの一助として参考になりました。
- 当市でも様々な学びの場を作っているが、やはりその場に通学することが、ネックになるのかと思った。むつ市では、仮想空間での学びを本格始動するわけであるが、様々な先進地での活用方法をミックスさせていくことと、行政面積の広さも過多になるのではないかと感じた。
- 不登校生徒の数は学年が上がる程多い状況はいずれにしても変わらないが、その対応は幅広く、特にデジタル技術活用のプラットフォームの受入が多様な学びの機会として確立されていることに感銘を受けた。そして、支援センターやチョイスの学びのメニューにおいて、学習活動のほか、クラブや遠足等の企画チョイスもあり、参加意欲が醸し出されるような工夫もあった。



◎北海道富良野市（7月2日（水））

【市の概要】

「富良野」の語源は、アイヌ語の「フーラヌイ」。「臭くにおう泥土」を意味する活火山である十勝岳から流れ出る川の水が硫黄臭く、この一帯が泥炭地帯であったことからきている。基幹産業は農業であり、富良野市及びその近郊の野菜生産額は、北海道全域で上位にランキングし、多様な農産物に加え、ワインやチーズなどの6次産業化の取組が行われている。また、年間約190万人が訪れる観光都市でもある。

【調査事項】

AIオンデマンド交通「ふらのり」について

説明者・・・富良野市総務部スマートシティ戦略室長	西野成紀
富良野市総務部スマートシティ戦略室	
スマートシティ戦略課長	木村栄一

【概要】

《経緯》

令和元年度に富良野市の新しい総合計画を策定する際に実施した市民意識調査において、「公共交通」の政策が最も不満度が高く、期待度が高い結果となった。また、「30年後の未来像として富良野市がどんな姿になっているのを望みますか」という質問に対し、一番多かった回答が「車がなくても不便しない生活環境」という項目であり、55%と最も多かった回答であったことが発端となっている。

○富良野市の路線バスの状況

富良野市内には路線バスが4本走っており、主に郊外から街中に入ってくる路線がある。



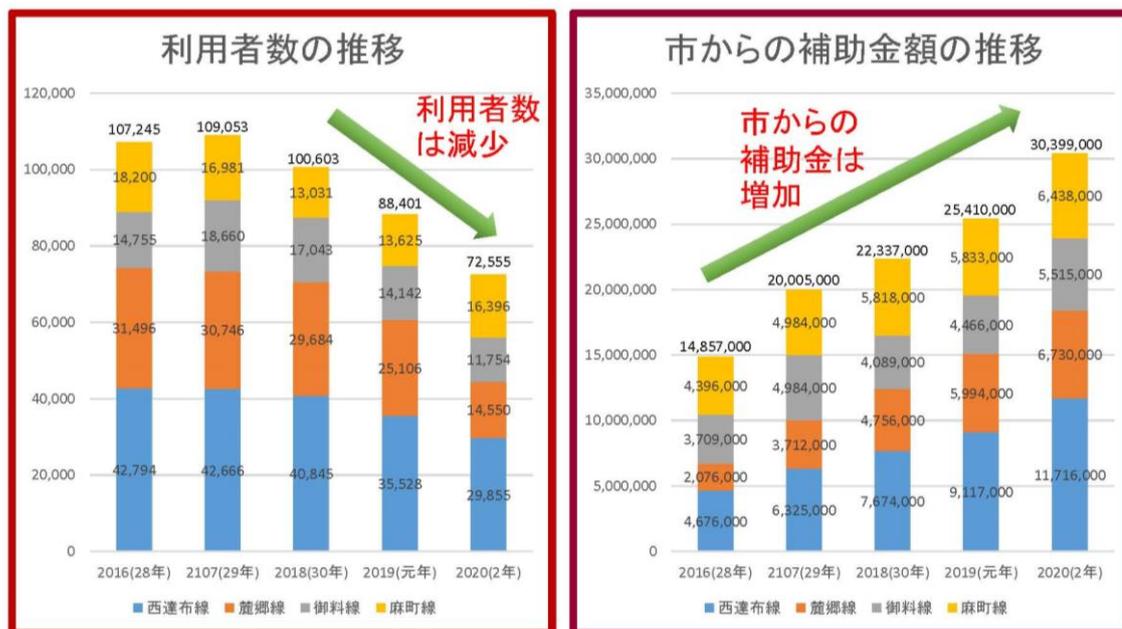
参照：富良野市行政視察資料より一部抜粋

路線バスの利用実態

路線名	路線区間	1日当便数	利用者数	1便当たりの利用者数
西達布線	協会病院 → 西達布	5便	34人/日	6.8人/便
	西達布 → 協会病院	5便	43人/日	8.6人/便
麗郷線	協会病院 → 麓郷	4便	22人/日	5.5人/便
	麓郷 → 協会病院	4便	22人/日	5.5人/便
御料線	協会病院 → 御料9線	3便	10人/日	3.3人/便
	御料9線 → 協会病院	4便	14人/日	3.5人/便
麻町線	富良野駅 → 鳥沼7号	3便	2人/日	0.7人/便
	鳥沼7号 → 富良野駅	4便	8人/日	2.0人/便

○路線バスの利用者数と補助金額の推移

市内の4つの路線バスの利用者は、平成29年の10万9千人から令和2年には3万7千人減少の7万2千人となった。また、市から路線バスへの補助金額は、平成28年の1,485万円から令和2年には3,039万円と約2倍となっている。



参照：富良野市行政視察資料より一部抜粋

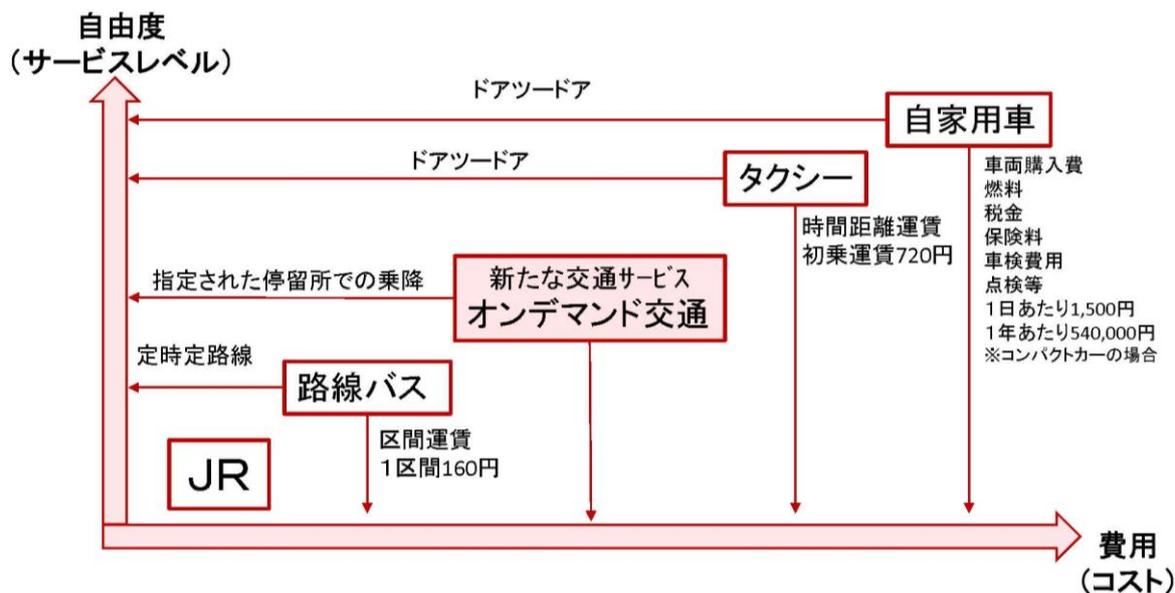
富良野市の地域公共交通の課題

1. 30年後の富良野市の未来像として、「車が無くても不便をしない生活環境」を望む市民の割合が最も多かった。
2. 路線バスの利用者が減少傾向にあり、市からの補助経費が増額していた。
3. 運転免許証を返納した高齢者や昼間自家用車のない子育て世代の親子の足の確保が求められている。



自家用車に依存しなくてもよい公共交通網の構築

○公共交通における費用と自由度の範囲



参照：富良野市行政視察資料より一部抜粋

《事業概要》

○A I オンデマンド交通ふらのり

A I オンデマンド交通ふらのりとは、乗車場所から降車場所までの乗り合い送迎サービスであり、運行時間内の希望するタイミングで行きたい場所に行ける新たな交通サービスである。



参照：富良野市行政視察資料より一部抜粋

運行概要

利用対象者：富良野市に住民票がある方

運行時間：平日9時から12時、13時から16時

※12時から13時の運行はしない。

※土日祝日、年末年始(12月30日から1月3日)の運行はしない。

乗車料金：一般(中学生以上)300円　子ども(小学生)150円

未就学児　無料

※支払い方法は「現金」または「回数券」のみで対応している。

運行車両：ワゴン車(乗車定員8名)1台で運行

利用方法

利用するには、事前に会員登録が必要であり、インターネットフォームまたは会員登録申込書から登録を行う。利用予約は、インターネットフォーム(24時間受付)または電話(受付時間：平日8時から16時まで)から予約を行う。なお、乗降場所は107か所設置している。

ふらのりご利用方法

富良野市に住民票のある方が対象です

①スマホからの入力ですべて予約を希望される方

まずは事前会員登録から！

右記のQRコードまたは以下のURLより登録を進めてください
<https://passenger.savs.miraihare.com/furano/#/>
※ふらのり専用アプリは別途ダウンロードが必要です。

右記のQRコードは株式会社デンソーグループの登録用です。



②電話からの予約を希望される方

以下のいずれかの方法で、会員登録申込書を富良野市へ提出してください。

富良野市窓口へ直接持ち込みの方	富良野市複合庁舎3階 総務部スマートシティ戦略室まで
郵送の方	〒076-8555 富良野市弥生町1番1号 富良野市総務部スマートシティ戦略室宛
FAXの方	0167-23-2120

※会員登録申込書は、富良野市複合庁舎1階総合窓口とふれあいセンターに設置しています。



①スマホからの入力ですべて予約

受付時間：24時間
 右記のQRコードまたは以下のURLよりお申し込みください
<https://passenger.savs.miraihare.com/furano/#/>
※ふらのり専用アプリは別途ダウンロードが必要です。

登録と同じ画面が出てきます。新規登録が済んでいる方は、「ログインID」と「パスワード」を入力して「ログイン」ボタンを押してください。
 ログイン後の画面で「デマンド作成」ボタンを押すと、予約の画面に移ります。

②電話での予約

【コールセンター】 受付時間：平日の8時から16時

0167-22-8177

※上記受付時間以外の時間は繋がりません。
 ※土日祝日と年末年始(12月30日から1月3日)は受付しません。
 ※名前・電話番号・利用希望日時・人数・乗降場所・降車場所をお伝えください。

乗車希望時刻の7日前から直前までの予約ができます。
※予約の状況によっては、お受けできない場合があります。

乗降場所付近には下記の表示板を掲示しています。

41 富良野市複合庁舎 南側玄関前

0167-22-8177

※表示板が取れて表示板の掲示ができない乗降場所も一部あります



1 富良野総合病院	47 ハローワーク富良野	72 緑木北幼児公園	101 とがし歯科医院
2 ふらの西病院	48 朝日会館	73 新富公園	102 宮田歯科医院
3 かかわら整形外科	49 北の峰児童館	74 北の峰南公園	103 藤堂デンタルオフィス
4 かとう整形外科クリニック	50 家町コメセン	75 北の峰西幼児公園	104 ふらの駅前歯科クリニック
5 内海内科クリニック	51 家町児童センター	76 成康公園(南町)	105 ふらの小児歯科矯正歯科
6 ふらの消化科・内科クリニック	52 家町コメセン	77 緑町公園	106 水口歯科医院
7 富良野病院	53 家町児童センター	78 緑町南幼児公園	107 高橋歯科医院
8 ふらの産婦科	54 家町コメセン	79 緑町児童センター	
9 サツドラ	55 家町コメセン	80 北斗野公園	
10 ライズマート富良野店	56 家町コメセン	81 北斗野公園	
11 ふらのフォーレスト 室くじ売場前	57 家町コメセン	82 コクニビルプラザ/ 本通り側	
12 エコープ春日店 4輪側	58 緑木児童センター	83 旭川信金富良野支店	
13 ギョウ	59 北の峰コメセン	84 ベルコ会館	
14 ツルハドラッグ弥生店	60 北斗野公園	85 北電ネットワーク	
15 セブンイレブン若松店	61 新栄公園 トイレ側	86 北の峰ハイツ	
16 ローソン北の峰店	62 みずほ公園 北一帯川側	87 北の峰ターミナル	
17 セイコーマート北の峰店	63 サンライズパーク あずまや	88 アリストホールふらの	
18 セブンイレブン緑町店	64 富良野高校	89 宇田一区会館	
19 富良野市複合庁舎 南側玄関前	65 富良野公園	90 富良野建設	
20 保健センター	66 南町公園	91 富良野郵便局	
21 図書館	67 春日公園	92 ふらの産協 本所事務所 正面玄関前	
22 スポーツセンター	68 春日公園	93 北海道労働会館	
23 ふれあいセンター	69 家町幼児公園	94 空知工機用組合	
24 富良野駅前	70 住吉公園		
25 富良野駅前	71 緑町幼児公園		

参照：富良野市行政視察資料より一部抜粋

利用実績

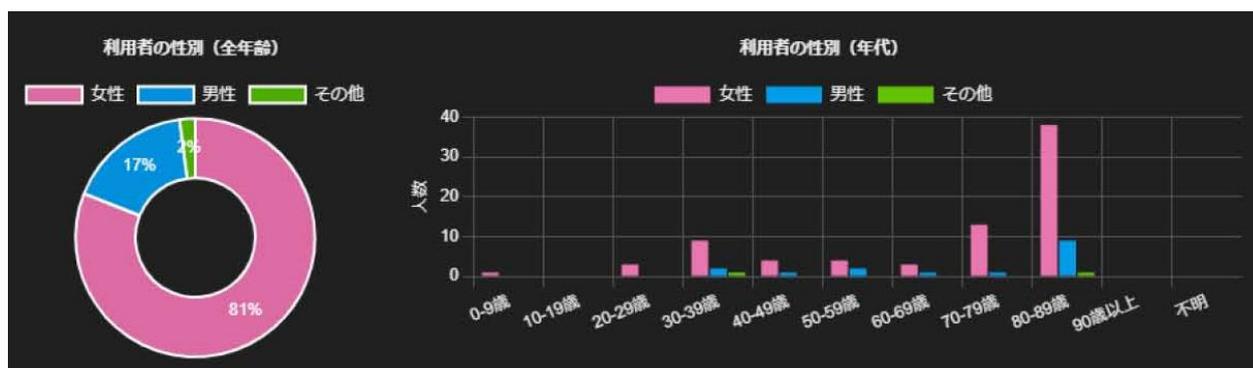
- 登録者数：695人
- 総利用者数(2023年11月から)：5,994人
- 一日当平均利用者数：15.7人



参照：富良野市行政視察資料より一部抜粋

(参考) 2025年5月利用実績

・利用者延数：296人 ・1日当たり平均利用者数：14.8人



参照：富良野市行政視察資料より一部抜粋

【主な質疑】

- Q タクシー会社等の交通機関からみれば、民業圧迫との懸念があると思うが、問題はなかったか。
- A タクシー会社からは、民業圧迫の懸念の声もあり、約1年間延13回の協議を重ね、AIオンデマンド交通の運行に理解をいただいた。
- Q 「ふらのり」のキャンセル手続きはどのように対応しているのか。
- A 電話またはスマートフォンでキャンセルができる。
- Q 運行状況に関するリアルタイムの情報は、どのようにして利用者に提供され、運行遅延が発生した場合の対応はどのようにしているのか。
- A 運行状況の情報は、リアルタイムで利用者に提供されないが、大幅な運行遅延が発生する場合は、利用者に電話連絡するようにしている。
- Q 「ふらのり」では、利用者からの声はどのように収集しているのか。
- A 令和6年3月に利用者に対しアンケート調査を実施した。

項目	内容
対象者	ふらのり登録者 377名
発送日	令和6年3月8日
取得期間	令和6年3月9日～4月9日
取得方法	郵送、WEBフォーム
回答者	郵送 206名 WEB 37名 合計243名
回答率	64.5%

- Q 70代・80代の方は、アプリでの利用ではなく、電話での対応が多くなっていると思うが、コールセンターの経費等はどのようにになっているのか。
- A 現在は専用のコールセンターから、タクシー事業者がコールセンターを担う形へ移行している。全体で見ると電話での予約は6割であるが、3割から4割がアプリ利用になっている。この3割から4割は、非常に高い数値になっている。これは、高齢者の方ではなく、30代の若い女性の方が利用していることが多く、利便性があると認識している。

【委員の所感】

- ・ 市の将来像を模索する市民アンケートの集約により、AIオンデマンド交通「ふらのり」を運行することになった。実施運行までには、既存の交通事業者との調整など多くの課題を乗り越え、実現できたところに苦難の様子が伺われた。利用するためには、会員登録が必要で運行時間、運賃、乗降場所等の制約があるものの、運行開始から数年で着実に会員登録数、利用回数を伸ばし、今日の市民の足として定着させているところは大いに称賛に値するものがある。
- ・ 富良野市の場合は、人口2万人のうち、中心部にかなりの人口が集中しており、また、観光での収入もかなり多い地域である。この辺は、当市とはかなり違うところがあり、行政面積が広く、人口も分布している地域も広いところから、中々難しいのではないかと思う。ただし、アプリを利用して行う事業としては、取り入れることが、出来る部分も多いのではないかと思った。
- ・ 年間の観光客が190万人、宿泊で86万泊の富良野市。日本人もさることながら、やはりインバウンドの観光客で賑わっている町。しかし、市中心部は閑散とした印象が残るがそれほどこの自治体も同じこと。とりわけ地域交通の問題も然りですが「ふらのり」のような事業は今後増えていくはずで、富良野市特性で、人口の78%が市中心部から2km圏内とのことです。大変有効な事業だと感じます。また、高齢になり運転に不安抱える本人やその家族も、このような事業が展開していれば、免許証返納もしやすいのかなと思います。むつ市でも、自動運転による実証運行の予定がありますが、運転手不足や交通難民に陥る可能性



のある市民のためにも、多角的に考えていかなければならないと思います。

・ 「ふらのり」は、AIが需要予測を行い、車両の最適配置やルート効率化を図ることで、運行コストの削減と環境負荷の低減を両立している点は、地方都市の交通課題解決に向けた、モデルケースとして高く評価できます。また、富良野市の地

形や人口分布、観光地としての特性を考慮した運行で、地域の実情に即した運用がなされていると感じました。地元住民からは「移動が楽になった。」「ドライバーが親切で安心する。」といった声が聞かれ、実際の効果が地域に根付いていることを実感しました。一方で、さらなる普及に向けた課題として、デジタルリテラシーの向上支援や、冬季の厳しい気象条件への対応強化が挙げられるかもしれません。これらの課題を克服することで、より多くの地域で同様のモデルが展開可能になると考えます。今回の視察を通じて、AIオンデマンド交通が地域の移動課題を解決するだけでなく、住民生活の質向上や地域活性化に寄与する可能性を強く感じました。当市においても、富良野市の取組を参考に、地域特性を活かした公共交通の再構築を図り、住民生活の質の向上と地域の魅力発信につなげたいと考えます。

上記のとおり視察報告いたします。

令和7年9月18日

むつ市議会議長 富岡幸夫様

総務教育常任委員会

委員長 野中貴健